平成３０年３月２日
提供：日刊工業新聞社
無断での転用・複写等を禁じます。

日刊工業新聞

遺伝子がん検診事業化

20年めど ジェノダイブ、沖縄で

【那覇】ジェノダイブファーマ（神奈川県厚木市、猪子英俊社長、０４６・２４０・７５１３）は、２０２０年までをめどに血液検査で超早期がんを発見する検診事業を沖縄県で始める。リキッド・バイオプシー技術を検査に活用し、血中に含まれるがん細胞由来の遺伝子を検出し特定する。検査受託による事業モデルを想定しており、事業化に向けて沖縄県内の医療関係機関と調整を進めている。

次世代シーケンサー（塩基配列解析装置）と独自のノウハウにより、がん細胞由来の遺伝子の血中濃度が従来の10分の1ほどの段階で検出可能という。採血のみで何度でも検査でき、患者負担を減らせる低侵襲性を強みとする。医療ツーリズムと絡めた訪日外国人への事業展開も視野に入れる。

沖縄振興開発金融公庫から資本性ローン２０００万円の融資を受けて研究開発を加速する。同社は17年に沖縄県うるま市に研究施設を設けたほか、４月には那覇市内に営業拠点を新設する計画。